

には、全世界の諸国が先ず、一方的に自ら軍備国防の觀念を捨て、一切の軍備を持たず、核兵器を放棄し、戦争権を放棄し、いかなる国際紛争にも暴力を行使せず、平和的に解決し、国内の社会秩序維持の為には、ただ警察を設くる。かくの如き国家政府を首として、世界の一切の良心的に目覚めたる人々の道徳的、宗教的信念の声を結合して、ソ米両国民に警告する事である。



大正5年2月別冊勧
同上4月再掲
世界宗教者結集大会開会の辞 平成14年4月再

日本山妙法寺 藤井 日達
昭和五十六年四月二十一日

南無妙法蓮華經

時が来た！

立つても座つても居られなく

我が家を跳だす時が来た。

天を仰ぎ地に伏して、誰れにも彼れにも訴えて

共に嘆く時が来た。

是が世界平和大行進。

是が世界宗教者結集大会である。

よも疑ひ候はじ。」と日蓮大聖人は「智慧亡國御書」に記された。

大悪とは何ぞ。人類を殺害し尽し、都市を破壊し尽し、一切の文明を滅亡せしむる処の世界大戦争である。大戦争の中にも近代開発された核兵器の大戦争である。核兵器の世界大戦争は未だどこにも起つた事はない。今はその大戦争準備中である。いわゆる核軍備競争である。核兵器世界大戦争は、ただ一度しか起らない。

もし、それが起つた時には、人類は地上にも海底にも空中にも、どこにも住む人は一人なくなる。第二次世界大戦の末期に、日本の広島にアメリカが投下した一発の原爆にて、凡そ十万人の市民が即死した。現在、ソ米両国に広島型の原爆百万個相当の核兵器が蓄積されてある。もし全面核戦争が起つた時には、この核兵器で一千億人が殺される事になる。

第二次大戦に、六ヶ年間に凡そ、五千万人が殺された。全面核戦争では五千万人を殺すには僅かに一秒で終る。核兵器とその運搬手段の開発は、近き将来、二十年以内にも全世界、全地球的大悲惨事をもたらさざれば、止まないであろう。

「大集絆の三災之内、二災早く顯われ、一災未だ起らず。いわゆる兵革の災也」と、「立正安國論」に予言せられた。

人類絶滅の核兵器を初めて開発せる者は、アメリカである。核兵器を初めて戦争に採用したる者も亦アメリカである。それのみならず核兵器を平和の守護神と迷信して、さかんに開発し、製造し、蓄積し、販売し、世界人類を脅迫し、恐怖せしめたる者も亦アメリカである。

人類絶滅の地獄の門をあけたるアメリカの大犯罪は、今日に至る迄アメリカ人の大統領も、マッカーサーも、反省懺悔せず、世界の誰れも未だこれを審判せず糾弾せない。第二次世界大戦の連合軍諸国を始め、全世界の良心ある者も呆然と手を拱ねて傍観してきた。それが与同罪となつて、遂に今日世界人類全滅の脅威にさらさるるに到つた所以である。

国家安全保証の為に、国民の生命、財産を守る為にといつて、人間殺傷、都市破壊の暴力たる核軍備競争に、国民総生産の何割かを投資し他方には衣食欠乏して餓死者続出する時、又、政府が命令したといふただそれだけの理由を以つて、他国他民族に対し、殺人・破壊、諸の罪惡行為の暴力が承認される時、少年達の人生感に、暴力行使は、社会生活の当然の事と考え、一般大衆をして暴力の行為に徐々に鈍感ならしむる。かくて如何に警察・裁判・刑務所を作りても国民の道徳心が麻痺した時には、白昼の街頭にて、公然と、殺人・強盗・強姦等の重大犯罪が行われ、社会秩序の基礎は崩壊する。その代表的通行者も殺される。誰れでも彼れでも殺される。金銭はみな盗まれる。携帯品は盗まれる。何でも盗ま苦悶は北米合衆国に現われた。大統領は次々に暗殺される。代議士も亦殺される。宗教者も殺される。

り、全国到る処、安穏な場所はなくなつた。

「アメリカは何という不幸な国であるのか、重大犯罪件数が史上最高に達した」と、悲鳴を上げた。政府首脳を始め全国民が、国内にその身の置き所がなくなつた。アメリカは、その国家としての存在は呪われたものである。

この原稿を書いたのが三月三十日午後二時。レーガン大統領が、一学生の為に、拳銃で首都ワシントン市の街頭に於て狙撃されたのも、米国暦の三月三十日午後二時。これは遇然か、当然か。アメリカの精神的荒廃振りは、大統領狙撃事件のみならず、越南戦争の敗北にも証明される。更に近く、鹿児島沖に於ける、潜水艦ワシントン号の日本貨物船日章丸當て逃げ事件も、又アメリカの精神的荒廃の証明である。

ひるがえつて日本国を見るに、日米安保条約によつて、数々アメリカの戦争政策を授けたるのみならず、自衛隊合憲論、平和憲法改正論が起つた。

少年が家庭に於て、その父母を撲り殺す等の暴力事件が、警察に報告されただけでも一千件を超えた。これ等の事件を家庭暴力と呼ぶ。学校に於ては、生徒が教師に傷害を与える。学校の名譽ある卒業式にも、警察官の看視なくしては、挙行する事ができない。これを学校暴力と呼ぶ。これ等の少年が、

暴力万能の自衛隊となる。有事立法を制定して、一指揮官が独断を以つて、他国と戦争を開始する事もできる。アメリカは、しきりに日本に軍備増強を勧告する。

併ら、「大悪起れば大善来る」の金言なれば、アメリカの救わるる瑞相として、アメリカの大悪を考え直す事もできる。

アメリカの軍備競争、優位獲得と世界支配の侵略戦争挑発の犯罪性を微罰せんが為に、大統領狙撃が行われた。越南戦争の敗北も、内にはアメリカ国民の反戦運動の拡大と、遠征軍隊の戦争否定と、外には世界の良識者達の、アメリカ批判の法廷が開かれて、越南民衆の道徳的救国精神を鼓舞せる事によつた。

核兵器世界大戦争が起つた場合に、大勝利を得んが為に、激しい核軍備競争を行つたソ米両国が、今に到つて共に却つて想像を絶する危険が、相互に迫つて居る事に気がついた。そこで両国の領土は、相互に聖域として認め合い、彼等が開発せる戦略核兵器を相互に使用せないという約束をする。核兵器戦争は、他の諸の弱小国、衛星国の領土内に於てのみ行うという計画を立てた。これがいわゆる、限定作戦である。

限定戦争の立案者ソ米両国は、彼等相互に談合して、各自の国土を聖域として安全に保証し、他の弱小国を滅亡せしめんと企てたけれども、恐らくは弱小国が滅亡する以前に、ソ米両国の聖域は、核兵器

そもそも、核軍備競争の発端は、ソ連が同盟軍であったアメリカの核兵器を信頼する事ができずして、アメリカを猜疑し恐怖して自ら核兵器を開発した。米国は、ソ連の核開発を恐れて、更に莫大の費用をかけて核兵器の殺傷能力を増大した。かくの如くして蓄積された核兵器が、二国対立の世界となる時、発火せずして永久に保存される筈はない。

次に起る世界大戦争は、どこが火元になるか予測はされないけれども、核兵器を大量に保有せるソ米両国の紛争が火元になるであろう。

将に起らんとする世界大戦争を未然に阻止し、核軍備を廃絶せんが為には、ソ米両国の危険なる核戦争政策を変更せしむる事が必要である。その為には、ソ米両国の民衆の世界支配の橋慢心を転じて世界平和建設に向わしむる事が先決である。ソ米両国の民心を平和に転向せしむるには、全世界の諸国が必ず一方的に自ら軍備国防の観念を捨て、一切の軍備を持たず、核兵器を放棄し、戦争権を放棄し、いかなる国際紛争にも暴力行使せず、平和的に解決し、国内の社会秩序維持の為には、ただ警察を設く。かくの如き国家政府を首として、世界の一切の良心的に目覚めたる人々の道徳的・宗教的信念の声を結合して、ソ米両国民に警告する事である。

「汝早く信仰の寸心を改めて、速かに実乗の一善に帰せよ。然れば則ち三界は皆仏國なり、仏國其れ

衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壊れんや。國に衰微なく、土に破壊なくんば、身は是れ安全にして、心は是れ禪定ならん。此の詞、此の言、信すべし、崇むべし」